

18歳意識調査 第35回
「コロナ禍とストレス」
統計分析結果報告書（追加分析1）

2021年5月30日

一般社団法人社会調査支援機構チキラボ

コーピングスタイル

目的

- 本人の持つコーピング方略は、ストレスや生活の変化とどう関係しているのか？ を検討すること。
- 特にあるコーピング方略を持つことにより、緊急事態宣言の影響は異なっていたのか？ を検討する。

方法:分析に用いた変数

- 速報版で用いた変数
 - ストレス反応得点
 - 過去一年間の生活の以前からの変化(3因子[外出しての活動(友人との活動)、家族での活動、一人での屋内活動])
 - 居住地の緊急事態宣言の発令の有無
 - 統計的に影響を取り除く要因
 - 性別
 - 現在の立場(高校3年生で進路未定、高校3年生で進路決定済み、高校後の教育課程に在籍、就労者、など)
- 本分析で新たに用いる変数
 - コーピング方略(3因子、後述)

方法:コーピング方略一質問

- 質問

- Q7「ストレスを感じたとき、どのような対応をしていますか。あなたにあてはまるものを全て選択してください。」という質問で、16個の選択肢(「その他」および「対応策はない」を含む)から多肢選択を求めた。

- 回答からの得点の計算

- カテゴリカル因子分析という手法を用いて、3因子に分解。各因子の得点を算出した(得点が高いほど、その種のコーピングを取りやすいという意味)

結果:コーピング方略—3類型

- コーピング方略は3因子からなる
 - 「接近方略」:問題に向き合う方略
 - 「よりよい状況にしようと行動する」「起きていることの良いところを探す」など
 - 「回避方略」:問題を遠ざけようとする方略
 - 「それに対応しようとすることをあきらめる」「『これは現実ではない』と自分に言い聞かせる」など
 - 「社会的方略」:ソーシャルサポートを得る方略
 - 「誰かから援助やアドバイスを得る」「誰かから精神的な支えを得る」など

重回帰分析

変数名	外出しての活動	家族での活動	一人での屋内活動	ストレス反応
統制変数				
女性	-.199**	.049	.019	.150**
立場_高3進路決定	.039	.075*	.059	-.057+
立場_高3進路未定	-.088**	-.026	-.054	-.020
立場_大学等	-.078*	-.060	.014	-.024
立場_就労	-.028	.013	.020	-.003
立場_訓練(浪人等)	-.032	.013	-.042	.021
立場_なし	.074*	-.014	-.040	.020
独立変数				
緊急事態宣言対象地域在住	-.063*	.094**	.024	.022
コーピング_接近方略	-.056	.088	-.038	-.113*
コーピング_回避方略	-.090*	.027	.192**	.423**
コーピング_社会的方略	.042	.107*	.130**	.133**
緊急事態宣言対象地域在住 ×				
コーピング_接近方略	.019	.058	.024	.012
コーピング_回避方略	.020	.031	.050	.056
コーピング_社会的方略	-.088*	-.104*	-.034	.009
R^2	.090**	.069**	.085**	.238**

値は標準化係数。

*や**は統計的に有意だったことを意味する(それぞれ $p < .05$, $p < .01$)

重回帰分析

変数名	外出しての活動	家族での活動	一人での屋内活動	ストレス反応
統制変数				
女性	-.199**	.049	.019	.150**
身分_高3進路決定	.039			-.057+
身分_高3進路未定	-.088**			-.020
身分_大学等	-.078*			-.024
身分_就労	-.028			-.003
身分_訓練(浪人等)	-.032		-.042	.021
身分_なし	.074*	.014	-.040	.020
独立変数				
緊急事態宣言対象地域居住	-.063*	.094**	.024	.022
コーピング_接近方略	-.056	.088	-.038	-.113*
コーピング_回避方略	-.090*	.027	.192**	.423**
コーピング_社会的方略	.042	.107*	.130**	.133**
緊急事態宣言対象地域在住 ×				
コーピング_接近方略	.019	.058	.024	.012
コーピング_回避方略	.020	.031	.050	.056
コーピング_社会的方略	-.088*	-.104*	-.034	.009
<i>R</i> ²	.096	.069**	.085**	.238**

回避方略を取る人ほど、
外出しての活動が減少
していた

外出しての活動や、家族での活動の
増減では、コーピング方略によって緊
急事態宣言の効果が変わっていた

一人での活動は、緊急事態宣
言と無関係に、回避方略と社会
的方略を取る人ほど増加

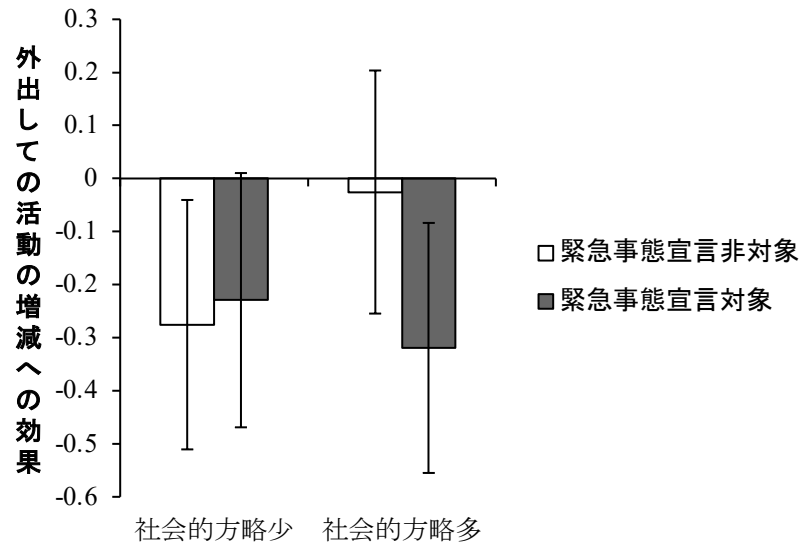
重回帰分析

変数名	外出しての活動	家族での活動	一人での屋内活動	ストレス反応
統制変数				
女性	-.199**	.049	.019	.150**
身分_高3進路決定	.039	.075*	.059	-.057+
身分_高3進路未定	-.088**	-.026	-.054	-.020
身分_大学等	-.078*	-.060	.014	-.024
身分_就労	-.028	.013	.020	-.003
身分_訓練(浪人等)	-.032	.013	-.042	.021
身分_なし	.074*	-.014	-.040	.020
独立変数				
緊急事態宣言対象地域在住	-.063*	.094**	.024	.022
コーピング_接近方略	-.056	.088	-.038	-.113*
コーピング_回避方略	-.090*	.027	.192**	.423**
コーピング_社会的方略	.042	.107*	.130**	.133**
緊急事態宣言対象地域在住 ×				
コーピング_接近方略	.019	.058	.024	.012
コーピング_回避方略	.020	.031	.050	.056
コーピング_社会的方略	-.088*	-.104*	-.034	.009
R^2	.090**	.069**	.085**	.238**

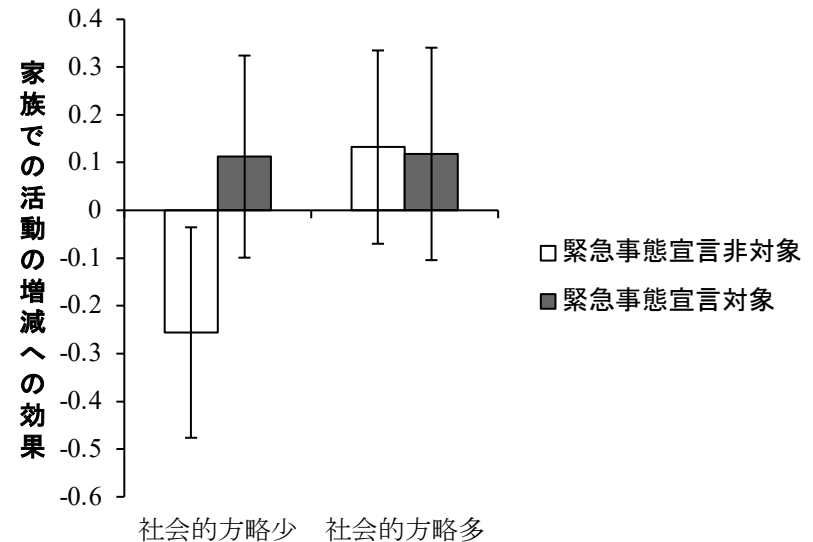
ストレス反応得点は、居住地域が緊急事態宣言の対象となったかどうかとは無関係に、接近方略を取る人ほど低く、回避方略や社会的方略を取る人ほど高い

重回帰分析ーコーピング方略と緊急事態宣言の 組み合わせによる効果

外出しての活動の増減



家族での活動の増減



- ・社会的方略が多い人で、
非対象地域 > 対象地域
- ・緊急事態宣言非対象地域で、
社会的方略が多い人 > 少ない人

- ・社会的方略が少ない人で、
対象地域 > 非対象地域
- ・緊急事態宣言非対象地域で、
社会的方略が多い人 > 少ない人

考察1

- 外出しての活動(友人との活動)
 - 結果のまとめ
 - (外出しての活動は総じて減少していたものである)
 - コーピングとしての社会的方略が少ない人々は、居住地が緊急事態宣言の対象になるかならないかに関わらず、外出しての活動を同程度に控えていた。
 - 一方社会的方略が多い人々では、緊急事態宣言の対象となった場合(感染流行が著しかった地域に住んでいた場合)と比べて、対象とならなかった場合には減少の度合いが小さかった。
 - 得られた示唆
 - 外出しての活動は感染のリスクを高めるものだが、同時にソーシャル・サポートを得る機会を増やすものでもある。ソーシャル・サポートを失うおそれが、流行状況が顕著に悪化し緊急事態宣言の対象とならない限り生活を変化させにくいことに繋がっていたのではないかと考えられる。

考察2

- 家族での活動

- 結果のまとめ

- (家族との活動は総じて増加していたものである)
 - 社会的方略を取る人では、緊急事態宣言の対象となったかどうかにかかわらず、家族での活動の変化量は同程度であった。
 - 一方社会的方略をあまり取らない人では、緊急事態宣言の対象となった場合にならなかった場合よりも増加していた。

- 得られる示唆

- 社会的方略を多く持つ(=家族もソーシャル・サポートのリソースとなっていることが多い)人々は、流行状況が悪化しなくとも家族での活動を自発的に増やそうとしたのかもしれない。
 - 社会的方略をあまり取らない人々であっても、流行状況の悪化は家族での活動を増やすことに繋がった。これはストレスフルなものだったかもしれないし、サポートを増やすものだったかもしれない。

考察3

- 一人での屋内活動

- 結果のまとめ

- 緊急事態宣言と無関係に、回避方略が多い人、社会的方略が多い人で増加
 - なお、回避方略は外出しての活動にも負の効果を持っていた。

- 得られる示唆

- ストレス経験時に問題を遠ざけるやり方でコーピングしようとする人々が、外出を減らし一人での活動を増加させるという、感染回避に有効と思われる変化を特に示した。
 - 社会的方略が一人での活動に正の効果を持つのは、それまであまり取らなかった行動を取るようになったということかもしれない。

考察4

- ストレス反応

- 結果のまとめ

- 緊急事態宣言対象地域に住んでいたかどうかにかかわらず、接近方略が多いほど弱い、回避方略と社会的方略が多いほど強い、ストレス反応

- 得られる示唆

- コロナ禍に特有の効果のみではなく、もともとの個人差特性(性格など)の差も反映しているのかもしれない。
 - ただし、回避方略を取ることは感染回避行動をよりとることとも関係しており[考察3]、一概に好ましくないとは言えない
 - 社会的方略が多い人では、コロナ禍で社会的関係が制限されたり、抑制されたりすることがストレス反応を強めたのかもしれない